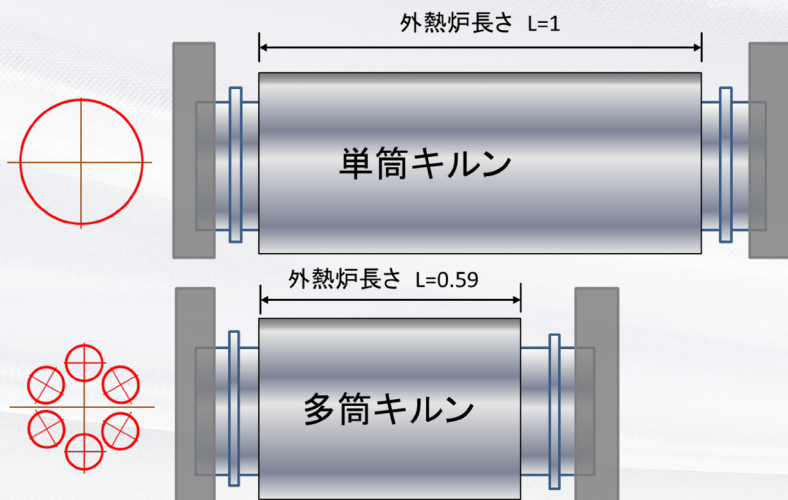


多筒型ロータリーキルン 独自の多筒構造により容器レス・高生産性を実現

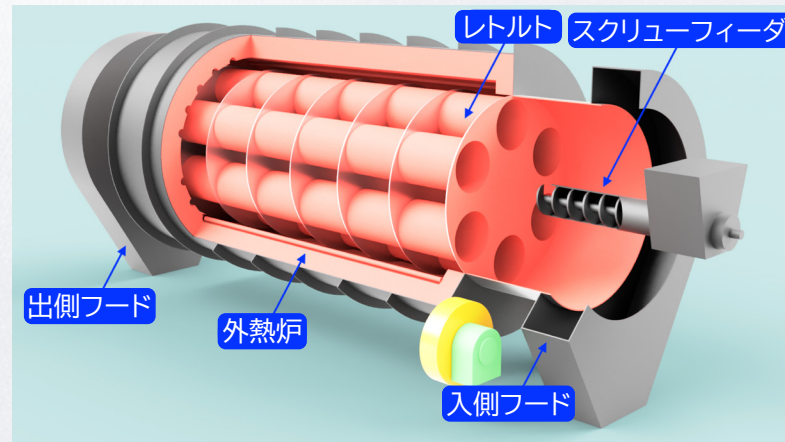


■特長

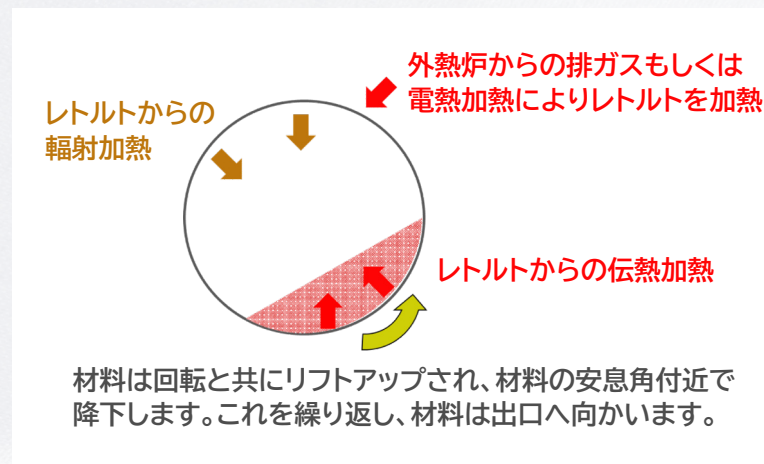
- 同じ伝熱面積の単筒型に比べて炉長が短く省スペースで、省エネ、CO₂削減にも貢献。
- 同じ処理量の単筒型に比べて、積層が薄くなるので加熱が早く均一。
- 雰囲気ガスとの接触効率が良く、処理性能に優れる。
- 外熱炉がコンパクトなため、放熱が少なく経済的。



■内部構造



■焼成の原理



〈本方式のメリット〉

- 雰囲気処理では主流の間接加熱が可能。
- 回転によりムラなく均一に焼成が可能。
- 回転するので雰囲気ガスとの接触効率が良い。

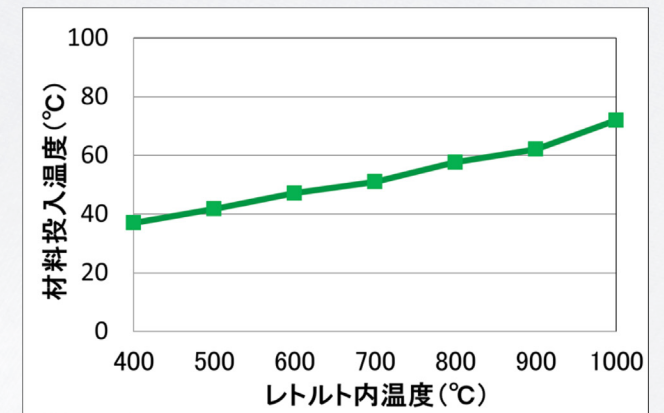
■仕様

最高温度: 1000℃
熱源: 燃焼排ガス／電熱
雰囲気: 酸化、無酸化、水素、水蒸気など
レトルト材質: 温度、雰囲気、処理材より選定

- 温度制御およびゾーン制御は電熱が適しています。
- 水素雰囲気100%での処理実績あり。
- 当社テスト機にて焼成試験が可能です。

■材料投入について

- スクリューフィーダによる定量投入
- 樹脂などの低温軟化材料でも高温のレトルト内に材料温度100℃以下で投入が可能(下記グラフ参照)。
→ 樹脂の場合、急速加熱されるため分解が早い。(投入時のレトルト内温度は樹脂のガス化温度以上が目安)
→ 材料投入時の閉塞・付着防止にも効果



■IoT技術活用による遠隔監視にも対応 (当社テスト機に標準装備)

